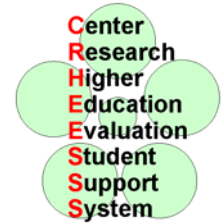


週刊センターニュース

No.129



第129号(2006年10月9日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

日時：10月12日(木)16:30～18:00

場所：角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ：海外における大学組織・教員身分のあり方について - アメリカ調査報告 -

発表者：渡辺 達雄(大学教育開発・支援センター)

趣旨：大学組織(教員組織)、および高等教育の国際化にともなう質保証のあり方を探るため、9月中旬にアメリカの専門機関・大学を訪問調査した。今回、主にデパートメント制と教育プログラムとの関係や、テニユア制をはじめ大学教員の身分の実態を中心に報告したいと思う。

ビジネス系専門職大学院の質保証

専門職大学院は、学校教育法の規定に基づき、平成20年度以内に、認証評価を受けることが求められています。ところが、専門職大学院のうち、認証評価の仕組みが整っているのは、法科大学院についてのみです。

こうしたなかで、認証評価を視野に入れ、ビジネス系専門職大学院の質保証を模索する動きが、最近になって顕在化してきました。

それは、「ビジネススクール教育の質保証システム開発プログラム事業」と呼ばれるもので、文部科学省の平成18年度大学改革推進等補助金(平成17年度採択)に拠る支援措置を得て運用されています。

同事業の趣旨は、全国のビジネススクールの参加・協力を得て、同修了生の専門職としての質を保証する新たなシステムの制度設計を行うこと、経営専門職の理念と専門職に必要な力量、教育制度設計、評価の仕組み等を検討する研究会を組織し、広く活用可能な「ビジネススクール教育の質保証指針」を作成すること、にあるものとされています。

上記事業を実施するため、「ビジネススクール教育の質保証システム検討会」の下、「育成人材像研究会」(幹事校：筑波大学)、「制度設計研究会」(幹事校：青山学院大学)、「質保証システム研究会」(幹事校：同志社大学)が置かれています。

上記のうち、ビジネス系専門職大学院の質保証システムにかかる制度設計の検討を具体的に行うのが、「質保証システム研究会」です。

この「質保証システム研究会」は、「ビジネススクールにおける教育の質保証システム」について、評価の基準とプロセス、「ビジネススクール」が備えるべき要件への適合性を客観的に評価する組織の制度設計についての指針を示すことを目的として、活動をしていくことが指向されています。

そして、本年9月14日には、同研究会の第1回ワークショップが開催されました。

ワークショップでは、冒頭、文部科学省高等教育局専門職大学院室室長より、「ビジネススクールを

巡る最近の動向」と題する講演がなされた後、本事業の進捗状況について、上記各委員会の代表者より説明がなされました。これらに続き、大学評価・学位授与機構、大学基準協会の関係者による専門職大学院認証評価に関する各組織内部での検討状況について報告がなされ、さらに同志社大学大学院ビジネス研究科の関係者により、「米国及び欧州におけるビジネススクール評価システム」と題する研究報告も行われました。

既に行われているアンケート調査の結果分析等を踏まえ、質保証システムの詳細検討を行い、年度内にテスト・ランを実施した上で、報告書・提言書の取りまとめ作業を完了させることが計画されています。（文責：評価システム研究部門 早田 幸政）

大学教育学会「2006年度課題研究集会」の基調講演者について

来る11月25日（土）、26日（日）の2日間に亘って、本学（金沢大学角間キャンパス・文法経済学部棟）で開催される大学教育学会「2006年度課題研究集会」の基調講演者で、「21世紀の教学戦略」をテーマにご講演をされる、（財）私学研修福祉会理事長、前日本大学総長の瀬在幸安先生のプロフィール等を、以下に紹介します。

瀬在幸安先生は、1930年長野県戸倉町生まれで、1955年に日本大学医学部卒業、1960年に同大学院医学研究科博士課程（外科学）を修了（医学博士）されました。1965年にフルブライト奨学研究者として米国留学（オレゴン大学）を経た後、1976年に日本大学医学部教授、1989年、医学部長、1990年、副総長、そして、1996年に日本大学第10代総長に就任されました。総長退任後、上述の如く、（財）私学研修福祉会理事長の職に就かれているほか、私立大学通信教育協会会長、私立大学退職金財団理事長などの要職を占められ、現在においても、高等教育界で精力的に活躍されています。

政府・審議会等関係としては、これまで大学設置・学校法人審議会委員（文部省）、全国医学部長・病院長会議会長（文部省）、公衆衛生審議会委員（厚生省）を務められたほか、日本経営者団体連盟常任理事などの職にも従事されてきました。

瀬在先生は、我が国心臓外科学の第一人者として、心筋梗塞の手術であるバイパス術で本邦最初の成功をおさめられるとともに、補助人工心臓につき本邦最初の離脱にも成功されました。こうした業績は、海外でも高く評価され、ハンス・セリエ賞、プラハ大学賞、国立ヨルダン大学賞、ギーセン大学賞、パーニー・クラーク賞など、数々の賞を受賞されています。

学会関連の活動も顕著で、これまでに、国際ロータリー血液ポンプ学会長、アジア胸部心臓血液外科学会会長、日本人工臓器学会長、日本生命倫理学会会長等を歴任されました。現在、日本冠動脈外科学会理事長を務められています。

こうした華々しい経歴を背景に、専門分野の著書・研究論文の数は、900編を上回っていますが、大学教育の中核で長年に亘り活躍されてきた中で、瀬在幸安対談集『知の復活をめざして 21世紀の大学を考える』（朝日カルチャーセンター、1996年）、共著『学長 大学改革への挑戦』（天野郁夫編、玉川大学出版部、2000年）、共著『これからの大学と大学運営』（丹保憲仁編、エイデル研究所、2000年）など、高等教育関係の著作もあります。

その中の一つである「新しい教学戦略」（上記『これからの大学と大学運営』所収）には、「高等教育の盛衰は、国の命運を決定するといわれており、21世紀は物的資本よりも、人的資本の時代である」との一文が掲記されており、本著作と予定される基調講演の演題の類似性とも相俟って、大学教育学会の基調講演において、戦略面から高等教育のあり方を問う瀬在先生独自の切り口がどう展開されるか、期待が高まるばかりです。（文責：評価システム研究部門 早田 幸政）